



千葉市立貝塚中学校 学校だより

校訓： 自主・創造・練磨

第11号
令和3年7月16日発行
千葉市立貝塚中学校
Tel.231-7077

◆夏季休業にあたり◆

校長 北島 啓行

雲間から真夏の太陽が顔をのぞかせ、いよいよ夏本番です。夏休みが近づくとつれ、子どもたちのわくわくした気持ちとは相反して、だんだん気の重くなるお母さんの姿が想像されます。

さて、夏休みは言うまでもなく、子どもたちの生活の場が学校から離れて、家庭や地域に移ります。学校での生活は時間割が決まっています。およそ時間通りに過ごすことはできますが、夏休みは自らの手で「自分の時間割」を作らなければなりません。その生活の中には学校では経験できない、様々な社会体験や自然体験の場が広がっています。コロナ禍の中、なかなか思う存分に活動することはできませんが、これらの体験は机に向かって学ぶことのできない貴重な学習であり、社会性を培ったり、見聞を広めたり、豊かな感性を育むことができます。明日から始まる44日間という長い休みを活用して、人間が本来備えている優しさ、たくましさ、温かさを発揮できる機会を子どもたちに与え、「心」を育てていただきたいと思います。

今年も暑い夏になりそうですが、お子さんをはじめ、ご家庭の皆さまにとりましても、コロナウイルスに打ち勝ち、健康で心豊かな夏休みになりますよう願っております。

夏季休業にあたり、各学年代表生徒の“夏休みに向けて”の言葉をご紹介します。



私たち1年生はこの貝塚中学校に入学して約3か月が経ちました。この3か月の中には新しく始まったことがたくさんありました。例えば、4月の初めには入学式があり、中学生になりました。違う小学校から来た人もたくさんいましたが、みんなと仲良くすることができました。

その後、委員会や部活動の仮入部期間などがあり、先輩と関わる中で、自分はどんなことをしたいのか考えながら活動をすることができました。そして6月には初めての体育祭と定期テストがありました。体育祭では、学年全員で一生懸命に取り組み、1学年の6月の目標「団結力」が高まった1日となりました。定期テストでは一人一人が目標をもち、その目標にむかって頑張ることができました。そのおかげで、学習をする習慣が身に付いた人いたので良かったです。

このように4月からを振り返ると、多くのことを学び、成長することができたと思います。この経験を生かして、次の活動につなげるようにしていきたいと思います。

1学年 代表 生徒

私が2年生になって大きく変わったことは主に2つあります。1つめは周囲の環境です。学年があがったときにクラス替えがあり、仲の良い友達と離れてしまって後ろ向きの気持ちもありました。しかし、新しい友達や明るいクラスメイトが話しかけてくれて、あっという間に溶け込むことができました。2つめは、後輩が入ってきたことです。私の部活動（演劇部）は2年生がとても少なく、1年生が入ってきてくれるか不安でしたが、たくさん後輩が入ってきて、とてもうれしかったです。先輩と呼ばれて驚くと同時に気が引き締まったことを覚えています。しかし、まだ3年生の先輩に甘えてしまっている部分が多くあるので、先輩方の卒部まで安心して部活動を任せられる2年生になれるよう頑張ります。たくさん入ってきてくれた1年生が一人も欠けないように、楽しくメリハリのある部活動にしたいです。そのためにも、夏休みという時間を日々大切にしていこうと思っています。

2学年 代表 生徒

3学年の課題点は、2分前着席です。3学年は自分から2分前着席ができる人が少なく、着席をしても話をしていることが多いなど、次の授業への切り替えがとても遅いです。時間前行動というのは受験でもとても大切になってくるものです。例えば時間に余裕をもって試験会場についていることができれば、確認や試験への気持ちづくりができ、落ち着いて臨むことができます。

3学年は進級時から比べると大きく成長していると私は思います。4月のころはほとんどできていなかった声掛け等が増えてきているからです。この調子で声掛けされずとも皆が一人一人意識をして行動ができるようになれば、もっと良くなると思います。

前期後半からは、受験生として本格的に学習に取り組んでいく時期となります。しかし、勉強だけでなく、基本的な生活習慣や学習習慣などができるようになると更に良いと思います。

3学年 代表 生徒

◆防災の日にあたって◆



最近のニュースで大きな衝撃を受けたのは、熱海市で発生した土石流による甚大な災害の様子です。この件以外にも、東日本大震災や令和元年の県内の豪雨による災害など、後を絶ちません。

9月1日は防災の日です。災害は起こってほしくはありませんが、政府の地震調査委員会が発表した“全国地震動予測地図“によると、千葉市が今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は85%とのこと。熊本では10%未満だったにも関わらず、地震であのような被害が発生してしまいました。心の面でも物資の面でも災害に備えておかなければなりません。まだ準備のできていないご家庭では、災害時の集合場所を家族で話し合ったり、最初の3日間をしのげる非常食等の準備をしてみたいかでしょうか。とはいえ、我が家ではまだそのような準備は整っておらず、早急に対応したいと思います。